

2014年9月26日 ジュネーブ発

【シリア、イラクなどからの庇護申請—欧州、北米、アジア太平洋地域で増加】

今日発表された UNHCR の報告書「先進諸国における庇護申請の暫定統計」によると、2014 年上半期先進諸国における庇護申請数が増加したことがわかった。主な要因はシリアやイラクでの対立や、アフガニスタン、エリトリアなどでの情勢不安である。

この報告書は欧州、北米、アジア太平洋地域の 44 ヶ国から集めたデータを元に作成された。これによると、今年 1 月上旬から 6 月末までの間に 33 万 700 人がこの地域において庇護申請を行なっている。昨年と同時期と比べ 24%増加しており、昨年の下半期（32 万 8100 人）と比べても増えている。

このまま下半期も増加が続けば 2014 年の庇護申請者の合計が 70 万人に達する恐れがあり、1990 年代の旧ユーゴスラビア紛争以来 20 年ぶりに最も多い数となる。

アントニオ・グテーレス国連難民高等弁務官は「紛争は混迷の一途をたどっている。世界的に人道支援活動を行なうのが困難な状況である。紛争への具体的解決策がなく、庇護を求める人が増え続けるであろう深刻な現状を国際社会は認識し、今後にも備える必要がある。残念ながらこのままでは、増え続ける難民に対し、人的・物的貢献や庇護へのアクセスを保証することが出来ない。」と訴えた。

庇護申請者が集中した国は、6 ヶ国（ドイツ、米国、フランス、スウェーデン、トルコ、イタリア）であり、全体の 3 分の 2 にあたる。

ハンガリー、ポーランド、また豪州では庇護申請者の数が減った。豪州では 4600 人（1 年前の同時期と比べて 20%減）ポーランドでは 3300 人（1 年前の同時期と比べて 65%減）、ハンガリーでは 4800 人（1 年前の同時期と比べて 58%減）が庇護申請を行なった。

概観すると大部分の庇護申請者の出身国はシリアであり、その数は倍増した（2013 年の同時期 1 万 8900 人だったが 4 万 8400 人に増えた）。イラクでは今年新たに多くの人々が家を追われたが、庇護申請を行なったのは 2 万 1300 人だった。イラクに次いで多かったのはアフガニスタン（1 万 9300 人）エリトリア（1 万 8900 人）であった。

この先進諸国 44 ヶ国での庇護申請数は、紛争による強制移動という世界的な現象の一部を反映したものだ。国内避難民、難民などを含め、2013 年末時点で 5120 万人が家を追われた。

UNHCR は毎年「グローバル・トレンドズ・レポート（年間統計報告書）」を発表しているが、今回発表された報告書「先進諸国における庇護申請の暫定統計」は年に 2 回出されている。

報告書全文はこちらからご覧いただけます。

<http://www.unhcr.org/5423f9699.html>

国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所 広報室  
107-0062 東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター  
Tel 03-3499-2310 Fax 03-3499-2272 www.unhcr.or.jp



UNHCR の支援活動は皆様のご寄付に支えられています。ご寄付は UNHCR の公式支援窓口である国連 UNHCR 協会を通じてお願いします。国連 UNHCR 協会  
フリーダイヤル: 0120-540-732（平日 10 時～18 時）[www.japanforunhcr.org](http://www.japanforunhcr.org)